

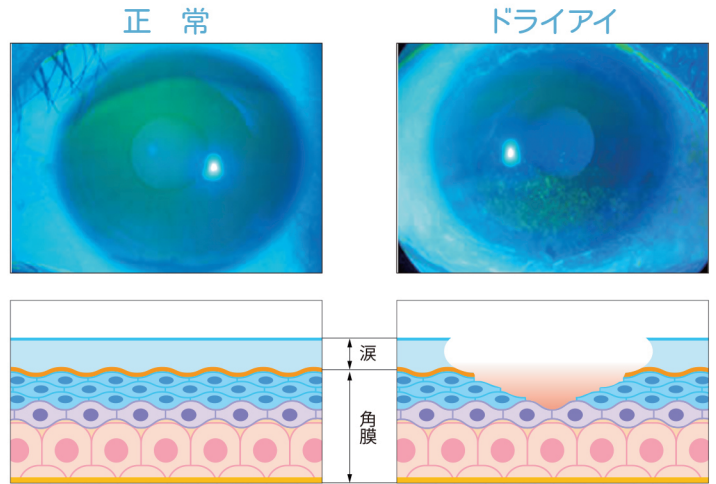
ドライアイ

眼科 大矢 史香

ドライアイって？

涙は目の表面を潤し、目が傷つかないように守るバリアのような役目をしています。涙の分泌量が減ったり、涙の質が低下して蒸発しやすくなった状態をドライアイと呼びます。ドライアイになると角膜に傷が付いたり、さまざまな不快な症状を引き起こします。

高齢化、エアコンの使用、パソコンやスマートフォンの使用、コンタクトレンズ装用者の増加に伴い、ドライアイになる方が増えており、その数は 2,200万人ともいわれています。



角膜が涙の膜で覆われている。

十分に涙膜で守られていないため、角膜に傷がつきやすくなります。

ドライアイチェックシート

<input type="checkbox"/> ものがかすんで見える	<input type="checkbox"/> なんとなく目に不快感がある
<input type="checkbox"/> 重たい感じがする	<input type="checkbox"/> 目がかゆい
<input type="checkbox"/> 目が痛い	<input type="checkbox"/> 目やにが出る
<input type="checkbox"/> 光を見るとまぶしい	<input type="checkbox"/> 目が疲れる
<input type="checkbox"/> 目が赤い	<input type="checkbox"/> 眼が乾いた感じがする
<input type="checkbox"/> 涙が出る	<input type="checkbox"/> 目がゴロゴロする

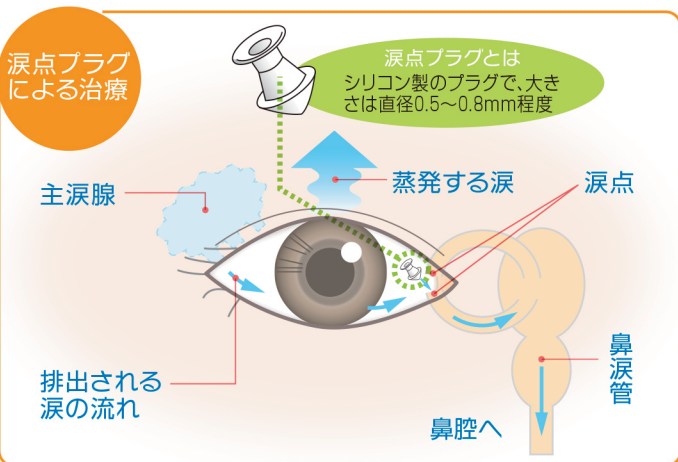
5つ以上ならドライアイの可能性ががあります

治療方法は？

ドライアイの治療には点眼薬による治療と涙点閉鎖による治療があります。点眼薬は従来、涙に近い成分をもつ人工涙液や、角膜の傷を修復するヒアルロン酸を含む点眼薬が使われていました。近年、ジクアス®やムコスタ®といった涙の質を改善させる点眼薬も開発され、重症ドライアイ患者さんの症状改善に役立っています。

点眼薬で効果が得られない場合は、涙点閉鎖による治療を行います。涙の排出口である涙点を閉じ、涙の流出を抑えて、涙を目の表面に十分にためる方法です。涙点にシリコンやコーラーゲン製の涙点プラグを挿入します。最近の涙点プラグは快適性に優れ、痛みや違和感はほとんどありません。その他、涙点を縫い合わせる涙点閉鎖術もあります。

ドライアイは慢性疾患であり、一度症状が改善したからといって治療を中断すると症状が再燃してしまいます。症状が改善しても、ドライアイが治ったと判断せずきちんと通院することが必要です。



関西ろうさい病院の理念

●● 良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために ●●

病院運営の基本方針

- ・私たちは、働く人々の健康確保のための医療活動、即ち「勤労者医療」中核的役割を担ってこれを推進します。
- ・私たちは、急性期医療機関として良質で安全・高度な医療の提供を行うとともに、地域の諸機関と連携して地域医療の充実を図り「地域に生き、社会に応える病院」としての発展を目指します。
- ・私たちは、患者さんの権利を尊重し、医療の質の向上ならびに患者サービスの充実に励み、「信頼され、親しまれる病院」作りを心がけます。
- ・私たちは、「開かれた皆様の病院」として、ボランティアや有志の方々の病院運営への参加・協力を歓迎します。
- ・私たちは、病院使命の効果的な実現のために「働き甲斐のある職場」作りを行い、運営の効率化と経営の合理化を推進します。



イメージキャラクター
かんろっこ

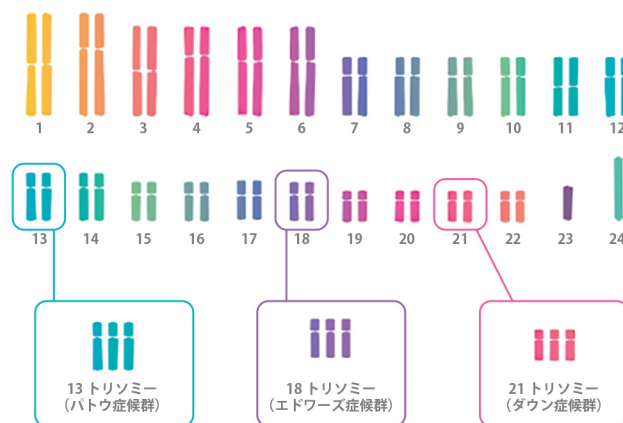
出生前遺伝学検査について

産婦人科 鶴田 智彦

出生前遺伝学検査って？

妊娠中の母親の血液を採取し、血液中に浮いているDNA断片を分析することで、胎児が特定の染色体異常症かどうかを調べる検査です。採血のみで検査できるため、従来から行われていた羊水検査等に比べ、妊婦や胎児への負担・リスクが少ない検査方法です。

現在、胎児が21トリソミー^{*}、18トリソミー、13トリソミーである可能性が高い確率でわかります。しかし100%の確率でわかるわけではなく的中率は90%程です。従って検査陽性となっても確定診断を得るためには絨毛検査または羊水検査が必要となります。反対に染色体数が正常であるという可能性は非常に高い確率でわかり、陰性的中率は99.9%です。ただ、染色体の一部が入れ替わったりくっついたりするなどの染色体の構造はわかりません。また遺伝性疾患かどうかを確認することもできません。



^{*}染色体は23対あり、本来は2本で1対の染色体を成しますが、この本数が何らかの異常で3本になることをトリソミーと呼び、21番のトリソミーはダウン症候群、18番のトリソミーはエドワーズ症候群、13番のトリソミーはパトウ症候群を引き起こすと言われています。



どんな人が検査の対象となりますか？

- 1 分娩時に35歳以上の高齢妊婦
(凍結胚移植による妊娠の場合は、採卵時の年齢が34歳2ヶ月以上)
- 2 21,18,13トリソミーの赤ちゃんを妊娠・出産したことがある妊婦
- 3 胎児が21,18,13トリソミーのいずれかである可能性が高い妊婦

いずれかに該当した場合、妊娠10週から検査を受けることができます。

検査を受けるにはどうしたらいいですか？

出生前に胎児の病気を見つけることは、胎児の生命に関わる多くの課題を含んでいます。検査を受ける前に、検査の特性・方法・リスク・わかることとわからないこと・意義を十分理解し、ご夫婦でよく相談して、自らの意志で検査を受けるかどうか判断する姿勢が大切です。また、検査費用は保険がきかず全額自費になります。当院の場合は産婦人科遺伝子外来にて遺伝カウンセリングをご夫婦で受けていただく必要があり、遺伝カウンセリングを含め約20万5千円です。出生前遺伝学検査について詳しくは遺伝学を専門とする医師(臨床遺伝専門医)にご相談ください。

